

# 音楽科特別授業(器楽講習会)を開催しました。

「J.S.バッハ『インヴェンション』および『平均律クラヴィーア曲集』  
チェンバロとクラヴィコード演奏,そして解析」

— 音楽修辞学におけるフィギュール —

演奏・解説 横山 博先生

平成27年6月20日(土)10:45~12:25  
宇都宮短期大学附属高等学校 3号館1階 合奏室



## ■チェンバロとクラヴィコードによる J.S.バッハ作品の演奏と楽曲解析

音楽科の特別授業として行われた今回の器楽講習会では、講師に本校音楽科卒業生で、ピアノ、チェンバロ、オルガン等の演奏者として活躍されている横山 博先生(日本大学芸術学部音楽学科卒・同大学院芸術研究科修士課程修了,スマラノ・オルガンアカデミー(伊)修了,西方音楽館副館長。詳細は【プロフィール】をご覧ください。)をお迎えしました。鍵盤楽器の練習曲としても知られているJ.S.バッハの『平均律クラヴィーア曲集』と『インヴェンション』について、チェンバロやクラヴィ

コードを使用して、興味深い授業が展開されました。

## ■西洋古楽器の響きと、音楽を言葉のように読み取る「音楽修辞学」 でバッハを感じる

音楽科の生徒であっても、西洋の古楽器の演奏を生で聴く機会は、そうあるものではありません。バッハの時代に主流であった鍵盤楽器、チェンバロの響きを間近に聴けたこと、またチェンバロよりさらに音が小さく、非常にプライベートな楽器、クラヴィコードのデリケートな音色を感じられたのも得難い経験となりました。



また、「音楽修辞学」について、絵画の修辞法も例にとりながら、とてもわかりやすく説明をしていただき、その方法を使って楽譜を丁寧に解析することで、バッハ自身が楽曲に託したものを読み解き、難解と思われがちなJ.S.バッハの音楽をより身近に感じることができました。

講習の最後には、古川黎菜さん(高校3年)が、横山先生への感謝の気持ちを込め



て、J.S.バッハ「無伴奏チェロ組曲」第1番のプレリュードをマリンバで演奏しました。

♪古川黎菜さんの感想 「この授業で音楽修辞学の手ほどきを受けたので、アナバシス（上昇音型）やカタバシス（下降音型）などのフィグール（音楽的な語法）を自分なりに意識して演奏してみました。とても緊張しましたが、楽しかったです。」

### ■チェンバロの試奏体験で、気分はバッハ？

講習終了後は、チェンバロやクラヴィコードに触れて、試奏できる機会をいただきました。生徒達は、実技の専攻や副科ピアノで練習している曲をかわるがわる弾いて、鍵盤のタッチや響きなど、ピアノとの違いを確かめていました。



♪町田真央さん(高校2年生)の感想 「未だに興奮がおさまりません。私が最近目標としている意味づけされた音楽ということのヒントがここにありました。フィグールについてはレッスンで少し触れていましたが、キリスト教におけるの意味は初めて学びました。初めて触ったチェンバロの感覚を思い出したり、いただいたテキストの分からない言葉たちを調べたりしています。」

## 横山 博【プロフィール】

1980年 宇都宮市生まれ。宇都宮短期大学附属高等学校音楽科卒、日本大学芸術学部音楽学科ピアノコースを首席で卒業。同大学院芸術研究科修士課程修了、湯川制賞受賞。2012年スマラノ・オルガンアカデミー(イタリア)修了。

2003年 (財)日本ピアノ教育連盟オーディション本選入賞。

2009年 宇都宮美術館「栄光のルネサンスから華麗なロココ」展で、エル・グレコなどのバロック・マニエリスムの絵画とともに全四回シリーズのチェンバロコンサート開催。

2011年 モーツァルト《クラヴィーア・ソナタ》全18曲演奏会を開催し、モダンピアノとフォルテピアノ、クラヴィコードを用いて演奏。

2012年 ペダル付きクラヴィコードにより J.S.バッハのオルガン・トリオソナタ等を演奏。またポーランドのサン・ペトロ・ニオ大聖堂において、2つの歴史的な大オルガンによりジョバンニ・ガブリエリ、ペレグリーニなどの作品を演奏。ベートーヴェンのピアノトリオ 作品1 全3曲を演奏。

2014年 モーツァルトのヴァイオリンソナタ《マンハイム・パリ・ソナタ》全6曲、チェンバロとクラヴィコードによる J.S.バッハの《フランス組曲》全6曲、《インヴェンションとシンフォニア》全30曲のリサイタルを開催。

現在 J.S.バッハの《平均律クラヴィーア曲集 第1巻、第2巻》全48曲を、クラヴィコードとチェンバロを用いたレクチャーコンサート・シリーズが進行中。

2008年～2012年 カトリック松が峰教会オルガニスト

チェンバロをジョン・バット、沼尾美和子、桑形亜樹子の各氏に師事。パイプオルガンをエドアルド・ベロッティ氏に師事。ピアノを堀江真理子、ジャン・ポール・セヴィアの各氏に師事。その他、鍵盤楽器の歴史的奏法や修辞学的解釈などを、ジャック・ファン・オールトメルセン、リウヴェ・タミンガ、フランチェスコ・チェーラ、ウンベルト・フォルニ、ウィリアム・ポーター、ジョエル・スピーストラ、ハンス・ダヴィットソンの各氏から指導を受ける。

横山音楽教室主宰、西方音楽館副館長